

1. 建学の精神

私たちは、「誰もが、豊かに、そして幸せに生きることのできる世界をつくる」という建学の精神のもと、「自立する」「共に生きる」「世界に目を向ける」ことを大切にしています。

2. 学校を設立するに至った背景

現代の社会は物事や考え方が急速に変化する予測のつかない社会だと言われます。その中で、私たちが多様な課題に向き合い、より良い社会をつくる担い手となるためには、一人一人が大切にされている実感を得て自分自身を大切にできることが一番の基盤になると考えています。

現行の学習指導要領においても、その改訂の経緯の中で、今の時代を予測が困難な時代だととらえ、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有」することが求められています。そして、一人一人の生徒を、「自分のよさや可能性を認識する」ことや、「他者を価値のある存在として尊重」すること、「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え」ることが出来るように育てていくことを、これからの学校に求めています。

このことを実現するために、私たちは、自分自身との関係、他者との関係、世界との関係を学ぶことを重視したイエナプラン教育をもとに学校を設立したいと考え、2019年4月に大日向小学校を、2022年4月に大日向中学校を開校することが出来ました。

オルタナティブ教育の1つとして知られているイエナプラン教育が大切にしてきたことには、生徒が自分の特性を活かしながら学ぶこと、自分自身の学びに責任を持つこと、年齢も考え方も違う集団の中で協働しお互いに助け合いながら成長すること、集団の中の誰もが自分らしく生活できるように責任をもって意思決定に参加すること、自分自身の関心から生まれる問いに基づき自発的に学ぶこと、そして、身近な自然や地域の人々との関わりといった実社会と地続きの学習環境の中で学ぶことなどが挙げられます。これらは、先に述べた学習指導要領の方向性と非常に親和性の高いものだといえます。

この5年間の大日向小学校での実践、2年間の大日向中学校での実践を振り返っても、イエナプラン教育の中で積み重ねられてきたことと、日本の教育が積み重ねてきたことを融合することで、小学校、中学校のみならず後期中等教育においても、新たな価値を提供することが出来るという手応えを感じています。そこで現行の大日向中学校を廃止し、新たに6年間の中等教育を行う（仮称）茂来学園中等教育学校を設立します。

（仮称）茂来学園中等教育学校は限られた人のためだけに、特殊な教育を行う学校ではありません。学習指導要領に基づいた教育を行う一条校として中等教育学校の新たな在り方を示すことも、私たちが目指すことの一つです。小学校と同じ佐久穂町で、継続して中等教育学校に通える環境を整えることは、12年間、一貫した考え方の元で教育を受ける場を整えることでもあり、公教育における選択肢を増やすという意義を持つと考えています。

3. 目指す人間像と教育内容

私たちは、次の3つが（仮称）茂来学園中等教育学校で実現したときに、自ら「誰もが、豊かに、そして幸せに生きることのできる世界」をつくらうとする意志と行動力を持つことが出来ると信じています。

（1）自立する

（仮称）茂来学園中等教育学校では、個々の発達や個性に合わせた学びを大切に、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、学びに対する当事者意識を育みます。まず、学習指導要領に則って教師が一人一人に対して学ぶべき課題を設定することで、生徒は「自身が学ぶべき課題」を理解します。次に、自らの学び方を選択し、どのように学ぶかの計画を立てることで、自分の学びに責任を持つことを学びます。私たちはこうした個別学習の時間をブロックアワーと呼び、知識の理解の質を高め、確かな学力を育成します。個別学習の時間には、必要なタイミングで教師からのインストラクション（指導・教授）とリフレクション（振り返り）・フィードバックが行われます。また、教室内には様々な教材や ICT 機器などを準備し、生徒が自らの力で学ぶことができるようになることを支援促進する学習環境をデザインします。

これらの活動は日々の学校生活に組み入れられており、生徒は、それぞれの発達に合った自然な流れの中で、自身の学び（仕事）に責任を持ち、自ら考え、より良い行動を選択するように成長していきます。

（2）共に生きる

（仮称）茂来学園中等教育学校では、異年齢での活動を重視し、生徒は、私たち人間は多様な存在であること、そして多様な人たちが共に生きるにはどうしたら良いのか（他者との協働）を毎日の学校生活の中で学びます。そのために私たちは、学級や異年齢グループでの対話を繰り返し、言語能力を確実に育成し、道徳的価値についても自分事として多角的に深く考えたり対話したりする練習を重ねます。

また、教科横断的で探究的な体験活動を通して、地域社会の多様な大人との関わりを持ち、伝統と文化に触れ、挑戦していくことの大切さを実感することで、長い目で見た職業だけにとらわれない「生き方」を学ぶこと（キャリア教育）にも繋げていきます。

佐久穂町の自然を最大限に生かし、生命の有限性や自然の大切さを知り、人間だけでなく、自然や地球との共存についても学びます。

（3）世界に目を向ける

（仮称）茂来学園中等教育学校では、私たちは、日々の暮らしの中で行われている営み（対話・遊び・学習/仕事・催し）を学校の中にも自然な形で取り入れて、理想の共同体を学校の中につくることを目指します。そして、現実にある本物に触れることを通して、私たちは社会の一員であるということを実感しながら学びます。それが、世界で起きていることに目を向けることになり、周囲の環境を大切に、責任を持って関わることに繋がります。

また、自分自身の関心や問いから自発的に行動することを繰り返し経験することにより、自身が世界

でどのように役立つことができるかを学ぶことになり、自己効力感が育まれます。

4.後期課程（高等学校段階）の趣旨

（1）単位制とする理由

文部科学省の資料には、単位制高校の特色として「自分の学習計画に基づいて、自分の興味、関心等に応じた科目を選択し学習できること」「学年の区別がなく、自分のペースで学習に取り組むことができること」が挙げられています。

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/seido/04033102.htm)

このことを踏まえ、本学園で開校を申請する中等教育学校の後期課程（高等学校段階）は単位制とします。その理由として単位制はイエナプラン教育の理念と親和性があるからです。例えばイエナプラン教育では異学年の生徒がクラスを構成し一緒に学びますが、学年制ではなく単位制であれば異学年の生徒が同じ科目を履修することができます。また、イエナプラン教育ではブロックアワーと呼ばれる時間に生徒が自分の課題を自分のペースで取り組む自由進度学習を取り入れています。単位制であればそれが可能になります。

（2）具体的な教育実践

既に大日向小学校・大日向中学校が実践してきた、イエナプラン教育の目指す異学年同一クラスの学びをさらに進化・深化させ、個別最適な学びと協働的な学びを融合させます。また、探究的な学びの実践については、イエナプランのハートとも言われる「ワールドオリエンテーション」の学びを、後期課程（高校段階）まで広げて取り組みます。具体的には、以下のような学習活動を実現します。

- ・地元商店街の空き店舗を活用し、中高生がどのような店舗を開くか、何をどのように売るか等を一から考え店舗運営を行う（起業することの意義や課題も学ぶ）
- ・動画チャンネルやインターネットラジオ（または FM）等を活用し、地元の情報を地域の皆様に流す（取材を含めて地域資源の良さや課題に気づく学び）
- ・後期課程の生徒（高校生）は、地域に根ざした NPO を立ち上げる経験、または起業する経験をする（地域社会を共創することを体験的に学ぶ）
- ・まち全体がキャンパスであるとの認識で、地域から学ぶ、地域ととともにあることを学ぶ（この場合の「まち」とは地元・佐久穂町を中心にした近隣自治体、生徒が暮らす社会そのものを指す）
- ・イエナプランの理念を学び、大日向小学校でイエナプラン教育の実習を行う

5.補足事項（三点）

（1）イエナプラン教育の拠点について

以上のような、本学園の中等教育学校の教育実践全体を通じて、日本におけるイエナプラン教育の実践及び研究の拠点としての機能を果たし、全国のイエナプラン教育の関係者や、探究的な学習活動を重視して行なっている教育関係者に知見を提供します。例えば1年に1回、全国の教育関係者に本校に集まってもらい、研究協議会を開催します。イエナプランを含めた、今後の日本の教育のあり方を共に語

り合い、分かち合います。

(2) 学級編成・HR 編成について

本校の1学年の定員は35人とします。前期課程は35人×3学年、105人定員ですが、イエナプランの理念に基づいて学級は異年齢(3学年混合)の生徒で構成するため、異学年4学級(1学級あたり26~27人)とします。各教科の授業は、学年ごとに取り出して行うこともありますが、各教科等の年間授業時数は全て満たすようにします。後期課程は35人×3学年、105人定員ですが、イエナプランの理念に基づいてホームルームHRは異年齢(3学年混合)の生徒で構成するため、異学年4HR(1HRあたり26~27人)とします。単位制のため異学年の生徒が同じ授業を受けることは頻繁に行われます。以上のとおり、変則的ではありますが、本校は合計8学級(HR)の編成となります。

(3) 部活動について

大日向中学校と同様、新たに開設する中等教育学校でも部活動は実施しないこととします。ただし、放課後及び土曜日・日曜日には、地域倶楽部に体育館等の施設を貸し出し、そこに本校の中高生も参加することで、部活動の地域化及び地域倶楽部活動の推進に貢献します。(特に南佐久エリアの合同部活動や地域化の動向にも全面的に協力していきます)

(添付資料1)

イエナプラン教育のコンセプトは、以下の「20の原則」をもとにします。

1.

どんな人も、世界にたった一人しかいない人です。つまり、どの子どももどの大人も一人一人がほかの人や物によっては取り換えることのできない、かけがいのない価値を持っています。

2.

どの人も自分らしく成長していく権利を持っています。自分らしく成長する、というのは、次のようなことを前提にしています。つまり、誰からも影響を受けずに独立していること、自分自身で自分の頭を使ってものごとについて判断する気持ちを持つこと、創造的な態度、人と人との関係について正しいものを求めようとする姿勢です。自分らしく成長して行く権利は、人種や国籍、性別、(同性愛であるとか異性愛であるなどの)その人が持っている性的な傾向、生れついた社会的な背景、宗教や信条、または、何らかの障害を持っているかどうかなどによって絶対に左右されるものであってはなりません。

3.

どの人も自分らしく成長するためには、次のようなものと、その人だけにしかない特別の関係を持っています。つまり、ほかの人々との関係、自然や文化について実際に感じたり触れたりすることのできるものとの関係、また、感じたり触れたりすることはできないけれども現実であると認めるものとの関係です。

4.

どの人も、いつも、その人だけに独特のひとまとまりの人格を持った人間として受け入れられ、できる限りそれに応じて待遇され、話しかけられなければなりません。

5.

どの人も文化の担い手として、また、文化の改革者として受け入れられ、できる限りそれに応じて待遇され、話しかけられなければなりません。

6.

わたしたちはみな、それぞれの人がもっている、かけがえのない価値を尊重しあう社会を作っていくなくてはなりません。

7.

わたしたちはみな、それぞれの人の固有の性質（アイデンティティ）を伸ばすための場や、そのための刺激が与えられるような社会をつくっていくなくてはなりません。

8.

わたしたちはみな、公正と平和と建設性を高めるという立場から、人と人との間の違いやそれぞれの人が成長したり変化していくことを、受け入れる社会をつくっていくなくてはなりません。

9.

わたしたちはみな、地球と世界とを大事にし、また、注意深く守っていく社会を作っていくなくてはなりません。

10.

わたしたちはみな、自然の恵みや文化の恵みとを、未来に生きる人たちのために、責任を持って使うような社会を作っていくなくてはなりません。

11.

学びの場（学校）とは、そこにかかわっている人たちすべてにとって、独立した、しかも共同して作る組織です。学びの場（学校）は、社会からの影響も受けますが、それと同時に、社会に対しても影響を与えるものです。

12.

学びの場（学校）で働く大人たちは、1から10までの原則を子どもたちの学びの出発点として仕事をします。

13. 学びの場（学校）で教えられる教育の内容は、子どもたちが実際に生きている暮らしの世界と、（知識や感情を通じて得られる）経験の世界とから、そしてまた、〈人々〉と〈社会〉の発展にとって大切な手段であると考えられる、私たちの社会が持っている大切な文化の恵みの中から引き出されます。

14. 学びの場（学校）では、教育活動は、教育学的によく考えられた道具を用いて、教育学的によく考えられた環境を用意したうえで行います。

15. 学びの場（学校）では、教育活動は、会話・遊び・仕事（学習）・催しという4つの基本的な活動が、交互にリズムカルにあらわれるという形で行います。

16. 学びの場（学校）では、子どもたちがお互いに学びあったり助け合ったりすることができるように、年齢や発達の程度の違いのある子どもたちを慎重に検討して組み合わせたグループを作ります。

17. 学びの場（学校）では、子どもが一人でやれる遊びや学習と、グループリーダー（担任教員）が指示したり指導したりする学習とがお互いに補いあうように交互に行われます。グループリーダー（担任教員）が指示したり指導したりする学習は、特に、レベルの向上を目的としています。一人でやる学習でも、グループリーダー（担任教員）から指示や指導を受けて行う学習でも、何よりも、子ども自身の学びへの意欲が重要な役割を果たします。

18. 学びの場（学校）では、学習の基本である、経験すること、発見すること、探究することなどとともに、ワールドオリエンテーションという活動が中心的な位置を占めます。

19. 学びの場（学校）では、子どもの行動や成績について評価をする時には、できるだけ、それぞれの子どもの成長の過程がどうであるかという観点から、また、それぞれの子ども自身と話し合いをするという形で行われます。

20. 学びの場（学校）では、何かを変えたりよりよいものにしたりする、というのは、常日頃からいつでも続けて行わなければならないことです。そのためには、実際にやってみるということと、それについてよく考えることとを、いつも交互に繰り返すという態度を持っていなくてはなりません。

(添付資料2)

私たちは、イエナプラン教育の「コア・クオリティ」を大切に子どもたちと向き合います。

自分自身との関係

- 1.1 子どもたちは自分の長所と短所を自覚し、自分の特性を活かしながら努力する。
- 1.2 子どもたちは自分の成長と発達を元に評価される。
- 1.3 子どもたちは何を学びたいか、何を学ばなければならないか、いつ説明が必要か、どのように学習を計画しなければならないかについて、自分自身で責任を持つことを学ぶ。
- 1.4 子どもたちは自分の発達に対してリフレクション（振り返って見直すこと）を学ぶ。またそれについて他の人と話し合うことを学ぶ。

他者との関係

- 2.1 子どもたちは、異年齢グループ(クラス)の中で発達する。
- 2.2 子どもたちは、協働、助け合い、それらについてお互いの行動を振り返ることを学ぶ
- 2.3 子どもたちは、ファミリー(根幹)グループ(クラス)や学校における調和の取れた共同生活について誰もが自分らしく、また、豊かな生活を経験できるように、みずから責任を持ち、共に意思決定に参加することを学ぶ。

世界との関係

- 3.1 子どもたちは、自分たちが成すことは、生きた真正な(本物で現実の)状況の中に対するものであることを理解し、その中で学んでいくことを学ぶ。
- 3.2 子どもたちは、自分の周囲の環境を大切に、責任を持ってかかわることを学ぶ
- 3.3 子どもたちは、世界について識るために、ワールドオリエンテーションの中で、学校が教材として提供している学びの内容を適用する。
- 3.4 子どもたちは、リズムカルに組まれた日課に沿って、遊びながら、仕事をしながら、対話をしながら、また、共に催しに参加しながら学ぶ。
- 3.5 子どもたちは、自分自身の関心や問いから自発的に行動することを学ぶ。

別表 教育課程（前期課程）

教科	授業時数			
	1年	2年	3年	計
国語	140	140	105	385
社会	105	105	140	350
数学	140	105	140	385
理科	105	140	140	385
音楽	45	35	35	115
美術	45	35	35	115
保体	105	105	105	315
技家	70	70	35	175
外国語	140	140	140	420
道德	35	35	35	105
総合	50	70	70	190
特活	35	35	35	105
合計	1015	1015	1015	3045

教育課程（後期課程）

教科名	科目名	必修 修科目	標準 単位	4年次			5年次			6年次					修得 単位	備考	
				必修	選必	選択 1	必修	自由 選択	選択 1	選択 2	必修	自由 選択	選択 1	選択 2			選択 3
国語	現代の国語	○	2	2												2	
	言語文化	○	2	2												2	
	文学 ※		4				4								4	4	
地理 歴史	地理総合	○	2	2												2	
	地理探究		4				4								4	4	
	歴史総合	○	2	2												2	
	歴史探究 ※		4					4						4		4	
公民	公共	○	2			2										2	
	シティズンシップ ※		4									4				4	
数学	数学Ⅰ	○	3	3												3	
	数学Ⅱ		4				4								4	4	
	数学A	○	2			2										2	
	数学B		2						2							2	
	数学探究 ※		4							4						4	
理科	物理基礎	○	2			2										2	
	物理		4										4			4	
	化学基礎	○	2	2												2	
	化学		4							4				4		4	
	生物基礎	○	2			2										2	
	生物		4									4				4	
保健 体育	体育	○	7	2		2				3						7	
	保健	○	2	1		1										2	
芸術	音楽Ⅰ		2	2	●											2	
	美術Ⅰ		2	2	●											2	
	書道Ⅰ		2	2	●											2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	○	3	3												3	
	英語コミュニケーションⅡ	○	4			4										4	
	論理・表現Ⅰ		2			2										2	
	論理・表現Ⅱ		2						2							2	
家庭	家庭基礎	○	2			2									2		
情報	情報Ⅰ	○	2	2											2		
学 校 設	アカデミック・ライティング ※		4									4				4	
	ビジネス ※		4									4				4	
	地域学 ※		4			4			4							4	
	異文化理解と国際交流 ※		4											4		4	

各学科に共通する教科・科目

定 教 科	ボランティア活動と社会貢献 ※		4					4							4	4
	インターンシップ ※		4					4						4	4	
	アウトドア実践 ※		4		4										4	
	食と健康 ※		4								4				4	
	創作表現 ※		4									4			4	
	プロトタイピング ※		4									4			4	
総合的な探究の時間		○	3	1			1			1						3
特別活動				(1)			(1)			(1)						
合計				22	2	4	18	2	4	4	4	4	4	4	4	4
				28			28			28			84			

(注)

※のついた科目は学校設定科目である。

卒業認定には74単位以上の修得(必修科目46単位、選択科目28単位以上)が必要である。

●の科目(音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰ)は1科目を選択必修とする。

各年次の選択科目は、自由選択または選択群の中から選択することができる。選択群の中からは1科目を選択することができる。

必修科目と選択科目を合わせて週28単位を履修の上限とする。

複数年次で開講されている選択科目については、いずれかの年次で履修できる。(前年次に修得した科目は履修できない。)